

【学習活動の概要】

1 単元名	『小倉百人一首』の和歌を鑑賞して文章を書こう～資料を引用して書く～																
2 単元の目標	関心のある和歌を小倉百人一首の中から選び，鑑賞したことを文章に書くことができる。																
3 評価規準	<p>【国語への関心・意欲・態度】 自分なりの関心に基づいて和歌を鑑賞し，それを文章に書こうとしている。</p> <p>【書く能力】 論理の展開を工夫し，資料を適切に引用するなどして，説得力のある文章を書いている。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 和歌の一部を引用しながら，鑑賞したことを文章に書いている。</p>																
4 題材	『小倉百人一首』																
5 主な学習活動	(1)単元の展開（全4時間）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="351 952 359 1008"></th> <th data-bbox="359 952 949 1008">学習活動</th> <th data-bbox="949 952 1420 1008">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="255 1019 351 1075">第1時</td> <td data-bbox="359 1019 949 1075">学習の見通しをもつ。 『小倉百人一首』の和歌とそれについて解説している文章を探して読み，情景等を想像するとともに，現代の人々のものの見方や考え方と比較しながら自分なりの考えをもつ。</td> <td data-bbox="949 1019 1420 1075">○鑑賞文を書くために，他の人のものの見方や考え方をとらえさせ，参考にさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1086 351 1142">第2時</td> <td data-bbox="359 1086 949 1142">自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方について他の人がどう思うのか，相互に取材する。</td> <td data-bbox="949 1086 1420 1142">○和歌については教師が提示するが，それを解説している文章は，学校図書館などを利用して生徒に探させる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1153 351 1209">第3時 (本時)</td> <td data-bbox="359 1153 949 1209">論理の展開を工夫し，自分が選んだ和歌について鑑賞したことを，和歌の言葉を引用しながら文章に表す。</td> <td data-bbox="949 1153 1420 1209">○自分が述べたいことに応じて適切な部分を引用することを確認させる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1220 351 1545">第4時</td> <td data-bbox="359 1220 949 1545">書いた文章をグループで読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価する。</td> <td data-bbox="949 1220 1420 1545">○古典を読んで様々なことを感じていることを確認させる。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第1時	学習の見通しをもつ。 『小倉百人一首』の和歌とそれについて解説している文章を探して読み，情景等を想像するとともに，現代の人々のものの見方や考え方と比較しながら自分なりの考えをもつ。	○鑑賞文を書くために，他の人のものの見方や考え方をとらえさせ，参考にさせる。	第2時	自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方について他の人がどう思うのか，相互に取材する。	○和歌については教師が提示するが，それを解説している文章は，学校図書館などを利用して生徒に探させる。	第3時 (本時)	論理の展開を工夫し，自分が選んだ和歌について鑑賞したことを，和歌の言葉を引用しながら文章に表す。	○自分が述べたいことに応じて適切な部分を引用することを確認させる。	第4時	書いた文章をグループで読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価する。	○古典を読んで様々なことを感じていることを確認させる。	
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点															
第1時	学習の見通しをもつ。 『小倉百人一首』の和歌とそれについて解説している文章を探して読み，情景等を想像するとともに，現代の人々のものの見方や考え方と比較しながら自分なりの考えをもつ。	○鑑賞文を書くために，他の人のものの見方や考え方をとらえさせ，参考にさせる。															
第2時	自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方について他の人がどう思うのか，相互に取材する。	○和歌については教師が提示するが，それを解説している文章は，学校図書館などを利用して生徒に探させる。															
第3時 (本時)	論理の展開を工夫し，自分が選んだ和歌について鑑賞したことを，和歌の言葉を引用しながら文章に表す。	○自分が述べたいことに応じて適切な部分を引用することを確認させる。															
第4時	書いた文章をグループで読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価する。	○古典を読んで様々なことを感じていることを確認させる。															
	(2)本時の学習（3/4時間）																
	<p>① 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『小倉百人一首』やそれについて説明している文章を探して読んだこと。 ・描かれた情景等を想像するとともに，内容について自分なりの考えをもったこと。 ・自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方についてどう思うのかを他人に取材し，メモをとったこと。 <p>② 和歌の一部を引用しながら，鑑賞したことを文章に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情景を説明したり自分の考えを述べたりする上で，最も適切な部分（語句）を選ぶ。 ・選んだ部分（語句）についての自分の考えを具体的に述べながら，和歌に表れた情景やものの見方や考え方などについて，鑑賞したことを文章に書く。 <p>③ 書いた文章を読み返し，論理の展開などについて確かめる。</p>																

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例では、中学校学習指導要領・国語の第3学年「書くこと」の指導と関連させて、第3学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(1)ア(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。」を指導する。特に、第3学年「書くこと」の指導事項「イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。」の中の「資料を適切に引用することと、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「古典の一節を引用することとの関連を図った学習を構想している。」

【言語活動の充実の工夫】

上述の内容を効果的に指導するために、言語活動を設定する。古典の文章を多様な見方で味わうことができるよう、「鑑賞したことを文章に書くこと」を設定した。これは、第1学年の「書くこと」の言語活動例「ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。」を具体化したものである。和歌を鑑賞する際には、描かれている情景、作者のものの見方や考え方、表現の特徴など、多様な角度から味わうことが大切である。特に、自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方について他の人がどう考えるのかを、取材を通して知るといふ活動を取り入れた。

＜取材の手順＞

- ・自分が選んだ和歌とそれを解説した資料を提示する。
- ・資料の内容について口頭で説明し、そこに表れているものの見方や考え方についてどう考えるかを聞く。
- ・グループ内で互いに取材し合い、その内容をメモする。

これは、第3学年「書くこと」の指導事項「ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。」の中の「取材を繰り返しながら自分の考えを深める」こととの関連も意識している。

生徒が鑑賞したことを書いた文章の例（抜粋）

課題に関する材料を集める中で、想定していなかったものの見方や考え方に会うなどして、それまでの考えを改めたり、別の角度から検討したりする過程を重視し、課題に対する考えを一層深めさせることを意図している。

このようにして集めた情報を基に、実際に、鑑賞したことを文章に書かせる。規定字数は、1単位時間内に書き上げることができるように配慮して、400字から600字程度とした。

内容については、味わった項目ごとに、自分なりの考えを明確にし、その根拠となる部分（語句）を引用することを意識させる。

なお、学習評価に当たっては、「言語についての知識・理解・技能」については和歌

の部分（語句）が適切に引用されているかどうかで評価し、「書く能力」については、主として、自分の考えと引用した部分（語句）とが適切に関連していて説得力のある文章になっているかどうかで評価する。

ひさかたの 光のどけき 春の日に しず心なく 花の散ららむ	《生徒A》 この歌の「しず心なく」という部分は、「落ち着いた心もなく」という意味で、桜の花に対して用いられている。この歌ならではの独特な表現であると感じるが、僕は、この部分は、作者自身も含めた多くの日本人の心に当てはまると思う。
花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる なめせしまに	《生徒B》 「花の散るらむ」は「花が散っている」という意味である。花が散るのを惜しむ人間とは対照的に、次から次へと花が散っているのだと思うと、何とも言えない趣深い歌であると思う。
《生徒C》 この歌には二つの掛詞があり、一つは「世にふる」です。これの「ふる」という部分には、「雨が降る」と「経る」という二つの意味があります。（中略）このような掛詞があることにより、歌の内容がより豊かなものになり広がりがあるものになっています。	《生徒D》 現代から考えると、花の色や自分の容姿が変わってしまったほど長い間、何もせずに相手のことを考えているなら、もう少し積極的に行動すべきだと感じました。